

2022年10月17日 Vol.203

円安進展の中に光明を見出す

深まりゆく秋の中で旅行に出かける方も増えてきたようですが、皆様はいかがでしょう。米国の政策金利大幅上昇が続く中で円安が進展し、日本に海外からやってくる外国人旅行者にとっては安くなった日本製品をまとめて買えるチャンスが到来しているようです。現状は規制がかかっている中国人観光客ではなく欧米からの観光客が中心で、数こそまだピークに達していないものの、日本にとっては久々のインバウンド需要に沸く状況となってきました。日本の株式相場にとっては米国株安のトレンドが続き、なおも上値が重いという印象がありますが、物価上昇の中で国民生活が生活防衛の動きとなり、中古品への需要が高まるという現象も見られ、そうした流れに沿って事業展開を推進するゲオホールディングス(2681)やオークネット(3964)などのリサイクル関連や中古品関連企業への関心が高まっているようです。また、円安による海外需要に活路を見出そうとする企業、更には海外から日本に生産を回帰する企業の株価には投資家の視線が集まっているように感じられます。

長期円高トレンドが続いた日本にとって30数年ぶりの円安水準局面がもたらすビジネス環境が株価に影響を及ぼしていることは明らか。日経平均はまだ基調としては上向いているとも言えますが、マザーズ指数に代表される中小型株指数は株価の上昇をあきらめたかのように相変わらず低迷状態。直近IPO銘柄もそうした中小型株の低迷の影響を受けて、その多くは上場後右肩下がり。それはIPO銘柄の事業規模がまだ小さいためでもあり、内需依存型の企業が多いことにもよります。為替メリットを受けるために海外市場を取り込む必要がありますが、これまでコスト競争力で中国に負けてきた日本が製品の品質の良さにコスト競争力をつけて欧米市場からのオファーを受けるようになると長期にわたり低迷してきた日本経済復活に至る光明が見出せるようになると大いに期待されます。

先週、筆者は3月IPOのイメージマジック(7793・G)を訪問し社長と面談。欧米では既に大きな市場となっているオンデマンドプリント市場(Tシャツやノベルティグッズなどに印刷を施し少量生産するビジネス)の日本での先駆的な企業。プリントフルなど既に米国発祥の企業では時価総額が1000億円規模の企業となっているそうです。導入したプリンターをメーカーであるブラザーと共同で改善し自動化を推進。徹底的に小ロット生産品の低コスト化を図ってきた同社の競争力が高まっています。余分な在庫を持たないでおこうとする市場ニーズにマッチし巨大市場である米国市場からも引き合いが来る可能性もあり円安下での今後の活躍が期待されます。こうした潜在成長の高い同社ではありますが、株価は上場後冴えない展開が続いているようで、中長期的な見直しを期待したいところです。

今年のIPO銘柄は10月12日のソシオネクスト(6526・プライム)で55銘柄。このあと11月15日のPOPER(5134・G)、ベースフード(2936・G)まで63銘柄が登場することになります。需給悪もあり昨年よりペースダウンしていますが引き続きAI関連、DX関連銘柄を中心に業務効率化を後押しする企業のIPOが活発なほか新たな

東京 IPO 特別コラム

サービスを展開する企業も上場が見込まれます。株式市場の需給悪で投資家の銘柄選びもシビアとなり上場後の株価低迷が続く銘柄も相次いでいますが、その中には企業内容がまだ十分に伝わっていない銘柄もあり短期投資家の投げも手伝って低迷を余儀なくされているケースもあるかと思われます。円安進展とともに市場全体が需給悪となる中で企業のファンとなってくれる様々な投資家に対して IPO 後の IR 活動、事業内容のわかりやすい説明が今ほど重要になっている時期はないものと推察されます。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)